

第3回盛岡地区新設高等学校統合検討委員会

日時 令和4年11月16日(水) 13:30～
会場 岩手県立不来方高等学校 第1会議室

次 第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 委嘱
- 4 報告
 - (1) 統合課題検討小委員会
 - (2) 教育内容検討小委員会
- 5 協議
 - (1) 設置学科・学系(案)について
 - (2) 校名候補(案)について
 - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉会

盛岡地区新設高等学校統合検討委員会 委員名簿

職名	氏名	所属・職名等	備考
委員長	清川 義彦	岩手県立不来方高等学校長	
副委員長	阿部 圭次	岩手県立盛岡南高等学校長	
委員	多田 英史	盛岡市教育委員会教育長	
委員	菊池 広親	矢巾町教育委員会教育長	第3回委嘱
委員	石川 健	盛岡市立乙部中学校長	
委員	伊藤 茂美	矢巾町立矢巾北中学校長	
委員	工藤 昭敏	盛岡市立巻堀中学校 PTA 会長	
委員	女鹿 隆徳	矢巾町立矢巾中学校 PTA 副会長	
委員	菊地 伸一	岩手県立盛岡南高等学校同窓会長	
委員	沢田 雅宏	岩手県立不来方高等学校同窓会長	
委員	浅沼 盛一	岩手県立盛岡南高等学校 PTA 会長	
委員	小岩 和人	岩手県立不来方高等学校 PTA 会長	
委員	川戸 英夫	岩手県立盛岡南高等学校副校長	
委員	村山 薫美	岩手県立盛岡南高等学校副校長	
委員	藤枝 修	岩手県立不来方高等学校副校長	
委員	菊池 由美子	岩手県立不来方高等学校副校長	

4 報告

(1) 統合課題検討小委員会

[第3回小委員会]

- 開催日時 令和4年9月6日(火) 15:50～16:45
- 開催場所 岩手県立不来方高等学校 第2会議室
- 出席者 10名
- 主な内容
 - ・ 協議
 - ア 校名候補(案)
 - イ 校訓の決め方
- その他
今後のスケジュール等について確認

[第4回小委員会]

- 開催日時 令和4年9月28日(水) 15:50～17:10
- 開催場所 岩手県立不来方高等学校 第2会議室
- 出席者 8名
- 主な内容
 - ・ 協議
 - ア 校名候補(案)
 - イ 盛岡地区新設高等学校の制服アンケート
- その他
今後のスケジュール等について確認

(2) 教育内容検討小委員会

[第3回小委員会]

- 開催日時 令和4年10月12日(水) 15:50～17:00
- 開催場所 岩手県立不来方高等学校 第1会議室
- 出席者 20名
- 主な内容
 - ・ 協議
 - ア 設置学科・学系について
 - イ スクール・ポリシーについて
- その他
今後のスケジュールについて確認

5 協議

(1) 設置学科・学系（案）について

ア 学科・学系等の編制に関する2案（A案・B案）

	A案 普通科8学級	B案 普通科7学級+スポーツの学びを行う学科1学級
学科等の編制	<p>■普通科（8学級）</p> <p>文系・理系の探究的な学びを行う学級 4</p> <p>芸術の学びを行う学級 1</p> <p>外国語を通じてグローバルな学びを行う学級 1</p> <p>体育・スポーツの学びを行う学級 2</p>	<p>■普通科（7学級）</p> <p>文系・理系の探究的な学びを行う学級 4</p> <p>芸術の学びを行う学級 1</p> <p>外国語を通じてグローバルな学びを行う学級 1</p> <p>体育・スポーツの学びを行う学級 1</p> <p>■<u>体育・スポーツの学びを行う学科（1学級）</u></p>

イ 体育・スポーツの学びを行う学級・学科にかかる2案の比較

	A案	B案	
		普通科	体育専門学科
学びの違い	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育に関する教科・科目の単位数を 25 単位程度（保健体育科目 10 単位、専門科目 15 単位程度）と想定。 ・1年次の学びの中で自身の適性や進路を見据え、2年次以降のコース選択を行う。トップアスリートとしての専門性を高めるコースや、スポーツに関して多角的総合的に学ぶコースなど、科目の選択の仕方によって幅広い分野を学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育に関する教科・科目の単位数を 25 単位程度（保健体育科目 10 単位、専門科目 15 単位程度）と想定。 ・健康やスポーツ科学、マネジメントなど、体育に関する多角的総合的な学びを中心とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育に関する教科・科目の単位数を 35 単位程度（保健体育科目 2 単位、専門科目 33 単位程度）と想定。 ・実技や講義、実習等を通し、トップアスリートとしての技術や専門性を高める学びを中心とする。
	1年次は共通したカリキュラムで学ぶ。	1年次から異なるカリキュラムで学ぶ。	
	高校入学後に、自分の適性や興味を見極め、進路を決定したい生徒には、適した編制である。	高校入学時点から、卒業後の進路を明確に「健康やスポーツ科学、スポーツ・マネジメント」と考えている生徒には適した編制である。	高校入学時点から、卒業後の進路に、実業団やプロスポーツ選手として競技を継続したいと考えている生徒には、適した編制である。

	A案	B案	
		普通科	体育専門学科
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎にクラス替えが可能となり、多様な人間関係の構築、社会性の育成がより期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間同じクラスメイトと過ごすことで、濃密な人間関係の構築がより期待できる。 	
	<p>〈普通科のカリキュラムによるメリット〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科に準ずる学びを行うことで、保健体育・スポーツ以外の単位数が保証され、基礎学力の定着がより効果的に図られる。このことにより、幅広い進路選択が可能となる。 ・卒業後の進路に「健康やスポーツ科学、スポーツ・マネジメント」と考えている生徒の学びに対応できる。 ・専門学科より若干時間数は減るものの、トップアスリートを目指す生徒にとっても十分なカリキュラムを提供できる。 	<p>〈体育専門学科のカリキュラムによるメリット〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートを目指す生徒にとって、充実したカリキュラムとなる。 	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の専門学科に比べ、保健体育に関する単位数が少ない。その分、体育の専門的な学びを保証するために、行事等でスポーツの実習を補う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後、けが等で進路目標を変更してもカリキュラムの変更はしにくい。 ・普通科と比べて入試科目の単位数が少ない分、大学入学共通テスト対応について弱点がある。 ・専門学科とした場合、定員確保の困難が予想される。 	

ウ 提案

第2回統合検討委員会での意見を参考に小委員会で検討した結果、**A案を提案**する。

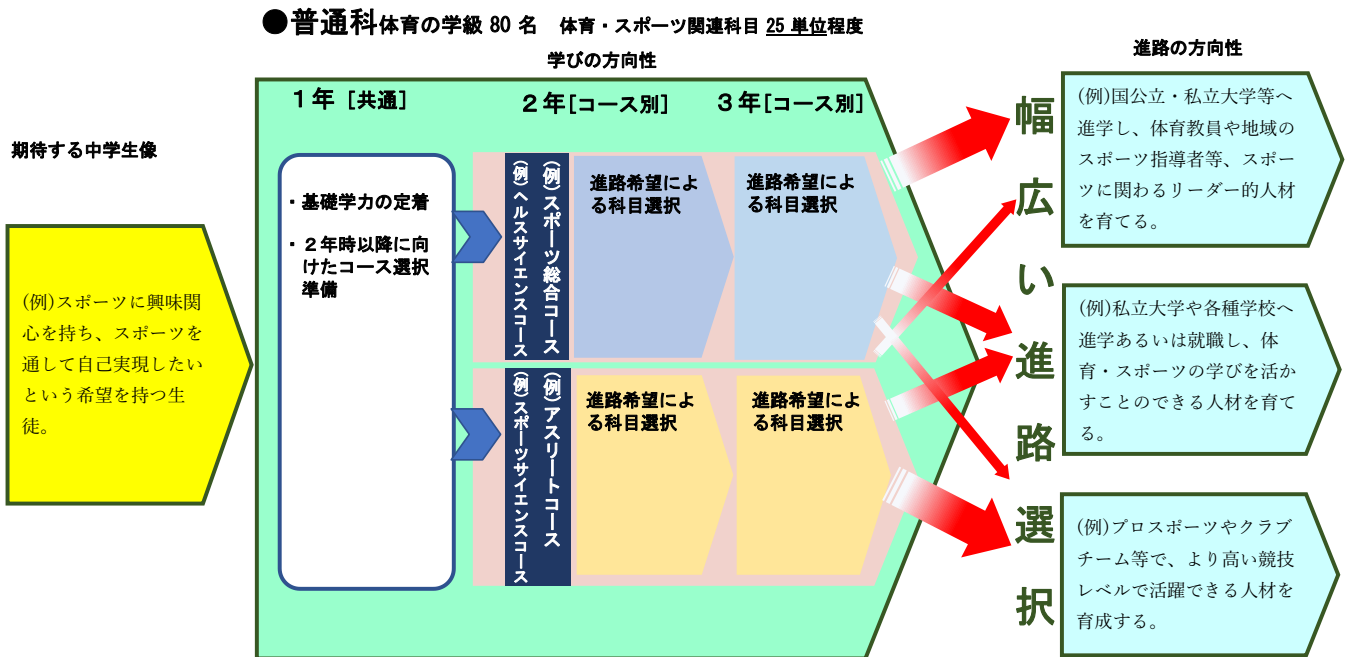
【提案理由】

盛岡南高等学校体育コース及び体育科、不来方高等学校体育学系の卒業生の進路を分析すると、体育系四年制大学への進学をはじめ、体育系以外の四年制大学の学部や学科、医療や福祉系専門学校、公務員や民間就職など多岐にわたっている。また、両校の進路目標決定時期を分析すると、高校入学後に、体育の学びを通して、自分の特性や将来の目標に向かい、進路を決定している生徒が多い実態がある。

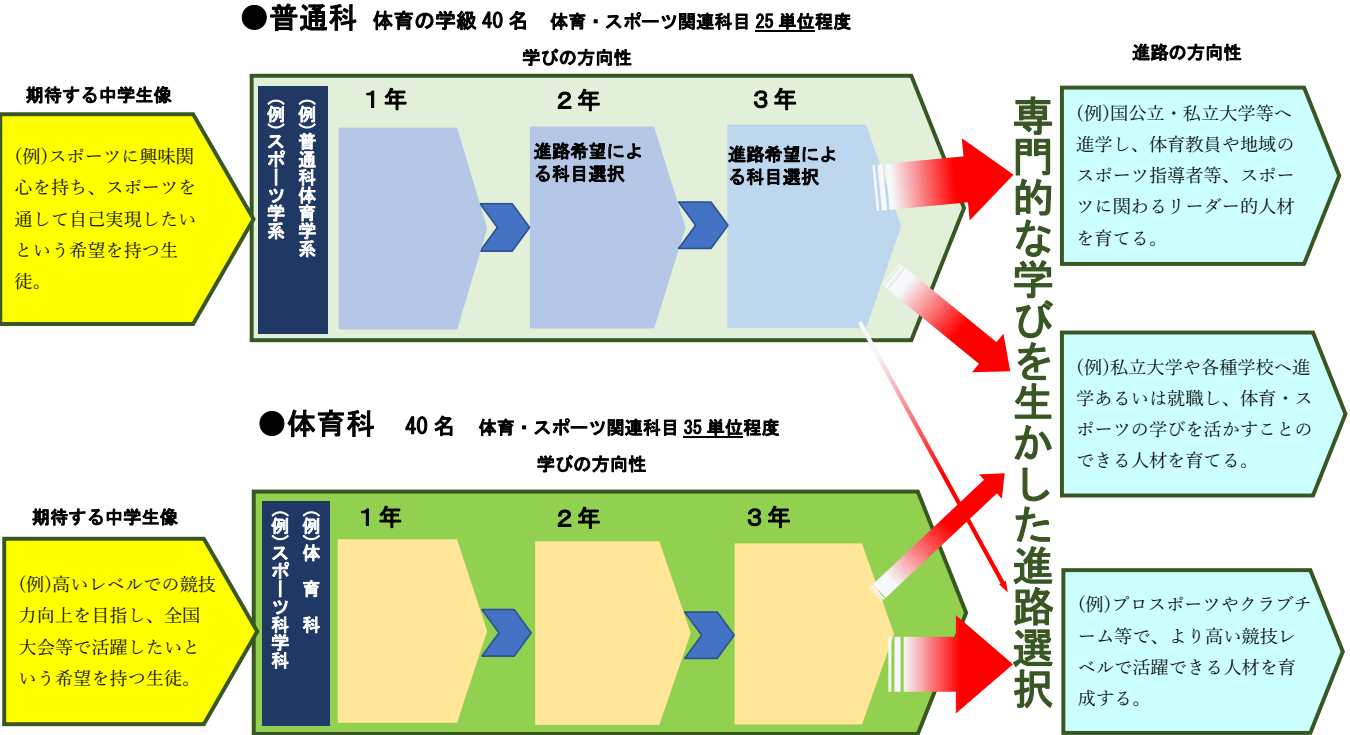
新設校では、これまで両校が培ってきた人材育成（トップアスリートの輩出、地域に貢献する人材育成）を継承しつつ、多様化する生徒のニーズに対応し、生徒自身が幅広い教科・科目の選択と柔軟な進路選択ができる学校としたい。

そのため、体育・スポーツの高い専門性を確保しながら、全ての生徒が多様な学びと柔軟な進路選択をより可能とするA案を提案する。

盛岡地区統合新設校における『体育・スポーツの学び』のイメージ 小委員会案 【A案】



盛岡地区統合新設校における『体育・スポーツの学び』のイメージ 小委員会案 【B案】



(2) 校名候補（案）について

ア 経緯

(ア) 校名（案）公募

- 公募期間 令和4年6月10日（金）～令和4年7月20日（水）
- 応募件数

受付方法	応募人数（人）	応募件数（件）
応募フォーム	278	306
郵便（持参を含む）	57	62
ファクシミリ	8	10
電子メール	16	17
計	359	395

(イ) 統合課題検討小委員会における協議

- 1回目 第2回小委員会（令和4年8月2日（火））
校名候補（案）を協議するに当たっての考え方等を確認し、応募があった395件、159種類を参考に、各委員が次回までに校名候補（案）を提出することとした。
- 2回目 第3回小委員会（令和4年9月6日（火））
各委員から提出された校名候補（案）について協議し、次回、別表にある校名候補（案）を参考に、統合検討委員会に提案する校名候補（案）を決定することを確認する。
- 3回目 第4回小委員会（令和4年9月28日（水））
別表にある校名候補（案）を協議し、統合検討委員会に提案する校名候補（案）を決定する。

イ 協議に当たっての主な考え方

- (ア) 統合する両校のいずれかの校名を校名候補（案）とはしない。
- (イ) 市町を超えた統合であることを踏まえ、校名に「盛岡」や「矢巾」を入れることについては慎重に進める。
- (ウ) 地域に親しまれ、高校進学を考える中学生が入学したいと思えるような校名候補（案）とする。

[校名候補（案）] (50音順)

案	(ふりがな) 校名候補	名称理由
A	岩手県立 しょうえい 翔永 高等学校	「翔永」の「翔」は、不来方高校の校歌の一節「飛翔の雄姿わが母校」・校訓「飛翔」から、「永」は盛岡南高校の校歌の一節「母校よ永久に栄あれ」から採り、両校の伝統の継承と次代を担う人材育成への期待を込めている。
B	岩手県立 とくだん 徳丹 高等学校	「徳丹」は、矢巾町にある国指定史跡「徳丹城跡」から採り、新設校が町の新しいシンボルとして文化を継承しつつ、地域とともに歩む学校となることへの期待を込めている。
C	岩手県立 なんしょう 南昌みらい 高等学校	「南昌みらい」の「南昌」は、「南昌山」から採った。「南昌山」は新設校が所在する矢巾町にあり、盛岡南高校の校章にはそれをデザイン化したものが用いられるなど、地域に親しまれている。 また、「みらい」には、次代を担う人材育成への願いを込めている。
D	岩手県立 もり おか 森が丘 高等学校	「不来方」、「森ヶ岡」は「盛岡」の古称である。「森が丘」には、両校の伝統を継承するわかりやすい校名とすることで、年代を問わず広く地域の人々に親しまれ、地域とともに歩む学校となることへの期待を込めている。

○ 3回目の協議で参考とした校名候補（案）（50音順）

校名候補（案）	名称理由
岩手翔愛	両校の校訓の一部を採り、岩手県を代表する高校として発展することを期待する。
いわて未来	岩手県の未来を担う人材育成を期待する。
高輝	両校の校歌の一節を採り、伝統ある両校が一つとなり光輝くことを期待する。
不来方南 （こずかた南）	両校の校名を残しつつ、新設校として新たな歴史を刻むことを期待する。
翔栄	両校の校歌の一節を採り、両校の伝統の継承と次代を担う人材育成を期待する。
昇峰	新設校の生徒があらゆる分野で成長し社会に大きく羽ばたくとともに、岩手の山々のように雄大な学校になることを期待する。
星翔	新設校の生徒1人ひとりが星のように輝き、新しい時代へ羽ばくことを期待する。
徳丹	矢巾町にある国指定史跡「徳丹城跡」から採り、文化と歴史の継承を新設校に期待する。
南昌	両校共通のシンボルでもある南昌山から採り、生徒が堂々とのびやかに育つことを期待する。
南翔	新たに盛岡地区の南に誕生する新設校の生徒が、希望ある未来へ飛躍することを期待する。
南昌山	都南地区から矢巾町を見渡す象徴的な山であり、盛岡南高校、の校章にも用いられなじみがある。
南翔未来	南昌の響きと両校の校名の一部を採り、新設校が文武両道を実現し、未来に向かって輝き続ける学校になることを期待する。
盛岡南昌	南昌山を望む両校が一つとなり、共に栄えてくれることを期待する。
盛岡南翔	盛岡南高校の校名と不来方高校の校訓の一部を採り、盛南地区有数の進学校として活躍することを期待する。
盛岡みらい	両校の校名の一部（「南」（み）と来（らい）」）を合わせて、未来に向かって新しい希望の満ちた学校になることを期待する。
森が丘	「不来方」、「森ヶ岡」は「盛岡」の古称であり、新設校が両校の伝統を継承し、地域の人々に親しまれことを期待する。
矢巾共栄	新設校が矢巾町に置かれ、両校の伝統が継承され共に栄えることを期待する。
矢巾総合	新設校は幅広い学びが可能となり、地域に愛される学校となることを期待する。